

旅立ちの日にそして来へ

第42回卒業式

3月14日に卒業式が行われた。呼名時に「あの先輩も卒業か!」と思った人も多かったろう。前日行われた予行練習の成果もあり、「旅立ちの日」はとても上手く、起立等はきっちり揃っていて、見応えがあるものであった。



▲卒業証書授与

体育館が開場すると、まず来賓の方々が入場された。そしてそれに続いて、吹奏楽部による演奏とともに365名の卒業生が入場した。開会の言葉ののち、卒業証書授与が執り行われた。ひとりひとり名前を呼ばれ、それに対して誰もが大きく返事をして応えていた。そして、クラスごとに一名がクラス代表として、校長先生から卒業証書を受け取った。その後、校長先生による式辞、PTA会長のお話、卒業記念品の授与を経て、在校生と卒業生による校歌斉唱が行われた。校歌は吹奏楽部が伴奏を務めた。それ故に、普段よりも少し豪華な校歌となった。校歌斉唱のあとは、現生徒会会長による送辞、及び前生徒会会長

そして、全員合唱の「旅立ちの日」は卒業生、在校生、保護者の方々、先生方、その場にいた全員が各々の思いを乗せて歌った。卒業生やその保護者の中には、下を向いて涙を流す人もいた。その場にいた多くの人にとって、記憶に残る合唱となったに違いない。リハーサルの甲斐もあってか、式は滞りなく進行し予定時刻までに一連の流れを終えた。そして、吹奏楽部による「キセキ」の演奏、会場全員による大きな拍手とともに、卒業生は会場をあとにした。三年生の卒業は名残惜しいこともたくさんあるが、三年生が築いたこの所沢北高校、そして所北三高を引き継いで、在校生である私たちは今後も所沢北高校での生活を送りたい。(浅見)

一年生スピーチコンテスト

2月9日、所沢北高校体育館にて、一年生の英語スピーチコンテストが開かれた。生徒たちは冬季休業間にスピーチの原稿を仕上げ、C英語の時間を使って各クラスで発表し、その中でクラス代表を決定した。そして代表生徒は、この日のために練習を重ね、準備してきた。

スピーチコンテスト当日、各クラスから選ばれた代表2、3名は、練習の成果を発揮し、大きな拍手が送られていた。その内容は、自分の趣味や将来の夢、社会や哲学などで、様々な観点から各々独自のスピーチを発表した。また、多くの生徒が日頃の授業で学んだ構文や表現を活かしたス

- スピーチ文章を書いていた。以下、その順位である。(浅見)
- 1位**
4組 小倉悠姫さん
「Precious book for Alice」
- 2位**
8組 沢田尚紀さん
「About English」
- 3位**
9組 権藤沙南さん
「Essential thing」
- 4位**
7組 井上友里菜さん
「Dreaming」

5位
3組 金吉昌宏さん
「Use of my special ability」

▲表彰式の様子

2月16日、一年生ボレーボール大会が行われた。男子はラウンドにてラケットを、女子は体育館にてバレーボールをそれぞれ行った。女子のバレーボール大会は、どの生徒も日頃の体育の授業で培った技術で、レシーブ・トス・アタックの流れで相手のコートへボールを返していた。サーブを返す一方のチームになることはほとんどなく、どの試合も手に汗握るシーソーゲームとなった。一方、男子のラケット大会は、未だ冬の寒さが

女子スポーツ大会

残る気温摂氏9度のラウンドで行われた。今年度はラケットの試合はタッチラグビーの試合形式となった。日頃体幹運動に加え、実践的な練習を積んで挑んだこの大会は、どの試合も熱い戦いを繰り広げた。会場では白熱した試合が繰り広げられ、大きな歓声が飛び交った。どのクラス、及びチームも、この学年、そしてクラスにおける最

バレーボール大会の様子

後の大きなイベントとして、大いに盛り上がったことだろう。(浅見)

科学の眼

RNAのプロセシングとタンパク質の多様性

私たちの体は、およそ37兆ともいわれる細胞からなり、それらを形づくり動かすために欠かせないのが「タンパク質」だ。タンパク質は、約20種のアミノ酸が60〜1500個つながったものからできている。タンパク質のアミノ酸の配列を決定しているのが「生命の設計図」ともいわれるDNAだ。生体内では、必要に

2月18日(日)、千葉大学園芸学部研究科助教 相馬亜希子先生による講演会が開かれた。以下は、その内容を簡単にまとめたものである。

タンパク質はDNAの一部がコピーされメッセンジャーRNA(mRNA)になり、リボソームという器官でmRNAの情報にしたがってタンパク質が合成されている。複雑な生物は、長いDNAと、多くのタンパク質をコードする遺伝子を持っていると考えられていたが、ここ十数年の研究の結果、ゲノムサイズや遺伝子の数と生物の複雑さの間には、まったく関係がないということがわかった。ヒトのDNAの長さゲノムサイズはアメーバの10分の1以下であり、遺伝子数はイネのものよりも少ない。ただ、ヒトのDNAのなかで遺伝子にあたる領域は非常に狭く、ヒトのDNAのうち、

部活動報告+α

陸上部

平成29年度所沢市体育協会賞 優勝団体賞
所沢北高校陸上競技部

女子リレーチーム
3-16 溝辺 由香
3-16 オコリリ 芹奈
3-13 団村 華
3-13 菊池 美緒
所沢北高校陸上競技部

男子リレーチーム
2-13 伊東 薬師
2-12 吉田 伊吹
2-15 春木 琉汰

男子バレー部

平成29年度所沢市体育協会賞 優勝選手賞
所沢北高校陸上競技部

男子
1-14 大野 晴恵
所沢地区新人戦大会
第4位

タンパク質遺伝子領域はわずか2%ほどしかない。同じように、複雑な生物ほどタンパク質を作らない領域が長いことがわかっている。この領域は、生物の複雑さにとり関わっているのだろうか。従来、生命の複雑さは、タンパク質の種類によるものだと考えられていた。しかし近年、非翻訳型のタンパク質に変化しないRNAが重要な意味をもつことが明らかになった。非翻訳型のRNAとして有名なのは、トランスアRNA(tRNA)とリボソームRNA(rRNA)だ。tRNAはタンパク質のもとになるアミノ酸を運搬し、rRNAはタンパク質合成の場であるリボソームを形づくっ

ている。また、それらのはかにも「マイクロRNA」とよばれる、特定のmRNAに結合して分解を促進し、遺伝子の発現を抑制するはたらきをもつRNAも見つかった。タンパク質のアミノ酸を指定するmRNAにも、不要な領域がないわけではない。未成熟のmRNAの不要な部分はイントロンとよばれ、リボソームに運ばれる前にカットされる(このことをスプライシングという)。その後必要な部分(エキソン)だけをつなぎあわせて、成熟したmRNAになり、タンパク質が作られる。ヒトの遺伝子は2万ほどしかないが、その遺伝子からつくり出されるタンパク質は10万

を超える。このことを可能にしているのが、スプライシングというシステムなのだ。スプライシングをはじめとするプロセシング(加工処理)によって、DNAに書かれた遺伝情報からは、さまざまなタンパク質が作られる。そのときに必要となるのが機能性RNAで、DNAのほとんどはRNA遺伝子のためにあるといってもいいだろう。また、タンパク質遺伝子もさまざまな様式で書き込まれており、それぞれに適したプロセシングによって正しい情報が取り出される。人間はまだDNAやRNAを解読しきったとはいえず、ゲノム情報は暗号のようなものにすぎない。生物のしくみはまだまだ解明されていないことの方が多いためである。(岡田)

1-9	丸山 龍之介
2-6	町田 達輝
2-2	山本 慎生
1-7	長谷川 裕介
2-6	中村 博仁
女子	第2位
2-6	岩月 晴花
2-1	貫井 星奈
1-4	大野 晴恵
1-6	佐藤 美織
2-5	藤原 悠希
2-4	兼田 俊輝
平成29年度所沢市体育協会賞 優勝選手賞	
2-13	川島 大暉
〈埼玉県駅伝競争大会(一般・大学・高校の部) 第9位入賞〉	
2-6	岩月 晴花
2-1	貫井 星奈
2-1	熊谷 沙南
2-5	藤原 悠希
1-4	大野 晴恵
〈所沢地区新人戦大会〉	
男子	第4位

金成産産慶喜新大会 第3位
金成産産慶喜新大会 ベスト16
(敬称略)